

テーマ	標準原価計算（Ⅱ）				
学籍番号					氏 名

1. 次の資料に基づいて、直接材料費差異を計算し、さらに差異分析を行いなさい。

〔資料〕

(1) 標準原価カード（一部）

直接材料費： @¥850 × 2kg = ¥1,700

(2) 生産データ

月初仕掛品	400個	(40%)
当月投入	2,600個	
合計	3,000個	
月末仕掛品	500個	(60%)
完成品	2,500個	

※材料は始点で投入される。（ ）内は加工の進捗度を示す。

(3) 実際原価データ

直接材料費実際消費額 ¥4,450,500 (5,250kg)

総 差 異	30,500 円 (有利 ・ ☐ 不利) 差異
価 格 差 異	12,000 円 (☐ 有利 ・ 不利) 差異
数 量 差 異	42,500 円 (有利 ・ ☐ 不利) 差異

2. 次の資料に基づいて、直接労務費差異を計算し、さらに差異分析を行いなさい。

〔資料〕

(1) 標準原価カード（一部）

直接労務費： @¥2,500 × 5時間 = ¥12,500

(2) 生産データ

月初仕掛品	500個	(3/5)
当月投入	1,500個	
合計	2,000個	
月末仕掛品	600個	(1/3)
完成品	1,400個	

※材料は始点で投入される。（ ）内は加工の進捗度を示す。

(3) 実際原価データ

直接労務費実際消費額 ¥15,190,000 (6,200 時間)

総 差 異	1,060,000 円 (☐ 有利 ・ 不利) 差異
賃 率 差 異	310,000 円 (☐ 有利 ・ 不利) 差異
時 間 差 異	750,000 円 (☐ 有利 ・ 不利) 差異

授業の感想など	
---------	--

テーマ	標準原価計算（Ⅱ）				
学籍番号					氏 名

3. 経法製作所では部品 Y を製造しているが、先日報告された 11 月中の原価実績は次のとおりであった。11 月の実際生産量は 2,700 個であったので、部品 Y1 個あたり実際原価は約 33,600 円となる。次の資料に基づき、直接材料費差異と直接労務費差異を計算し、差異分析を行いなさい。

〔資料〕

(1) 部品 Y の標準原価カード

標準原価カード					
(標準単価)			(標準消費量)		
直接材料費	@	500 円	×	20 kg	= 10,000円
(標準賃率)			(標準直接作業時間)		
直接労務費	@	500 円	×	10時間	= 5,000円
(標準配賦率)			(標準直接作業時間)		
製造間接費	@	1,500 円	×	10時間	= 15,000円
単位あたり標準製造原価					<u>30,000円</u>

(2) 原価データ

直接材料費：	材料実際価格	@¥630	材料実際消費量	52,000kg
直接労務費：	実際賃率	@¥560	実際作業時間	29,500時間
製造間接費：	実際発生額	¥41,520,000		

(3) その他

11 月の実際原価は標準原価より約 12%高かった。

● 直接材料費差異

総 差 異	5,760,000 円 (有利 ・ <u>不利</u>) 差異
価 格 差 異	6,760,000 円 (有利 ・ <u>不利</u>) 差異
数 量 差 異	1,000,000 円 (<u>有利</u> ・ 不利) 差異

● 直接労務費差異

総 差 異	3,020,000 円 (有利 ・ <u>不利</u>) 差異
賃 率 差 異	1,770,000 円 (有利 ・ <u>不利</u>) 差異
時 間 差 異	1,250,000 円 (有利 ・ <u>不利</u>) 差異

授業の感想など	
---------	--